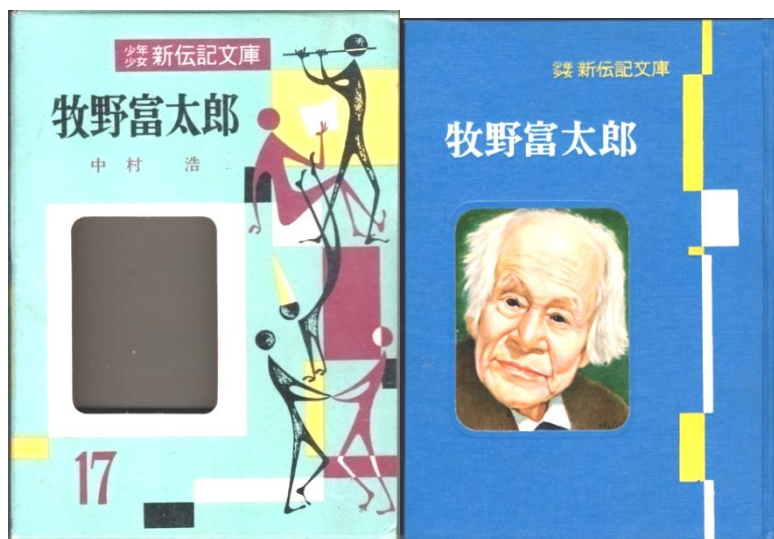


鹿沼の自然・栃木の旅

月報第 4 号

(2012 年 8 月)



～牧野富太郎生誕150年～

北光クラブ
自然観察クラブ

同書より「まえがき」

日本からも、世界的に名高い学者が何人かでています。牧野富太郎博士もそのうちのひとりです。牧野富太郎の名はみなさんもよく御存じでしょう。牧野博士は小学校もろくにでなくて、自分の力で一生けんめい植物のことを勉強し、世界でも名高い大植物学者になった人です。牧野博士は幼いころから学問が好きで好きでたまらず、自分の力で勉強し、いろいろな困難とたたかって、自分の志をつらぬきとおした人です。

みなさんも、志をたててこれをつらぬけば、牧野博士のようになれるのです。牧野博士は、みなさんのよいお手本だと思います。

牧野博士は百才もそう遠くないお年になられました。しかし、まだまだとても御元気で、研究をつづけておられます。

私は少年時代から牧野博士につれられて野や山に植物採集にでかけ、草や木の名をいろいろ教えていただきました。そして、お昼のおべんとうをいっしょに食べながら、牧野博士からいろいろのためになるお話をうかがいました。

私は牧野博士からうかがったいろいろのおもしろい話をみなさんにおつたえしたいと思います。とくに牧野博士の少年時代のお話はとてもためになると考えています。

そこで、この本で、牧野博士の生まれたときから、今日までの九十何年の努力の物語を書きつづってみることにしました。この本に書かれてあることは、私が牧野博士から直接にうかがったことばかりです。もう耳がすっかり遠くなった牧野博士は、私とお話するときにも耳に手をあてて「うん、そうか、そうか。」とニコニコしながら、おかしなことをおもいだしてうちとけてお話をして下さいました。この伝記は、牧野博士が御自身でみなさんに直接お話して下さいようなものです。私はそのなかつぎをしているにすぎません。ですから、みなさんも、この本の表紙にでている牧野博士のお顔をみながら、先生からじかにお話をうかがっているつもりで読んで下さい。

なお、この本に載せた数多くの写真は牧野先生が喜んで貸して下さいましたものです。ここに牧野先生の御厚意に対して厚く感謝いたします。また、本文中敬称を略しました点もお許し願いたいと存じます。

水の生き物観察会
7月8日(日) 天気・晴れ

いくつかの用水路をめぐり、水の中に棲む生き物を観察しました。樺山では岸辺にアカソの生い茂った川や、泥底に生えたナガエミクリが立ち上がって開花している流れに網を入れてみました。コイ、カワムツ、ウグイ、タモロコ、モツゴ、ドジョウ等の魚類、トウキョウダルマガエルやツチガエルといった両生類、そしてマルタニシヤアメリカザリガニが見られました。玉田町ではキショウブやコカナダモが生える川にカワムツ、タモロコの他、フナの稚魚がたくさん見られ、サワガニやカワニナ、コオニヤンマの幼虫も網に入りました。板荷の吉良堀ではナガエミクリの他、流れに漂うバイカモにも花が咲いているのが見られ、アブラハヤやヤマメがたくさんいました。

水底が泥であったり砂利であったり、そして水草が生えている所、岸辺に草が生えている所、そんないかにも魚がいそうな所には魚がいるものです。そういう所には昆虫や微生物が棲んでいて魚の食物になり、隠れがにもなるからですね。そんな場所がたくさんあるといいのですが。

(北光クラブNEWS・No.117 掲載)

- ※ 参加者
大類留美子・将史、
小川真司・知峻、
佐々木茂・伸二
・千洋・真澄、
石崎裕子・隆史、阿部良司
(計 11 名)



“カエルをとったよ” (佐々木真澄・年長)

北光クラブ・サマースクール2012

① 昆虫観察

おもに樹液に集まる昆虫の観察をします。

近くに川があると水生生物の観察になってしまうかも。

日 時：8月5日（日）AM6：00 北小西門集合（～12：00）

場 所：鹿沼市内の雑木林、河原など。

持ち物：捕虫網、虫かご

薄手のジャンパー、長そでシャツ、長ズボン、帽子、長靴、軍手。

白っぽい服装で。

参加費：100円

② 魚釣り教室

鹿沼学舎の皆さんと一緒に黒川でギーコン釣りをします。

鹿沼学舎の豊田敏盟氏が許可を取って下さるので、網も使用できます。

ウグイ、オイカワ、カワムツ等がねらえます。

日 時：8月19日（日）AM9：00 北小西門集合（～12：00）

場 所：黒川

持ち物：D型の網、ズックびく、またはバケツ。

（さお竹、仕掛け、エサは用意します。）

水遊びできる服装で。水に入ってもよい運動靴、または長靴。

参加費：200円

問い合わせ：自然観察クラブ（090-1884-3774 阿部）



“黒川水族館” オープン!

黒川水系に生息する魚類等を一挙公開



8月1日(水)～31日(土)
AM10:00～PM4:00

場 所：クリーニングハウスあべ裏庭（戸張町1818）

入場料：無料！

主 催：自然観察クラブ（090-1884-3774）

展示内容：

スナヤツメ ウナギ ギンブナ キンブナ コイ タモロコ
 アブラハヤ カマツカ モツゴ ウグイ オイカワ カワムツ
 シマドジョウ ドジョウ ギバチ ナマズ アカザ サクラマス（ヤマメ）
 カジカ
 アメリカザリガニ クサガメ アカハライモリ サワガニ
 ミシシippアカミミガメ マルタニシ



黒川では他に、ムギツク、ホトケドジョウ、トウヨシノボリ、ジュズカケハゼも生息しています。

※ 展示内容は変更になる可能性があります。

休業日についてはお問い合わせください。



見に来てね～



☺ 会員からのお便り ☺

茂呂でシロバナモウズイカ発見

今年の3月頃に見なれぬ草本植物があるのに気づいた。園芸植物かとも思い近所をさがしたが、どこにも植えられていない。まず花が咲くのを待つことにした。

6月にはいって白い花が一輪咲いたので、ごまのはくさ科のシロバナモウズイカだと分かった。モウズイカの花は黄色で、その白花品らしい。明治時代にエサシソウの名で入れられたことがある。今は各地の道端に帰化しているそうだが、鹿沼ではまだ珍しい植物だと思う。花がたくさん咲いたので写真を撮りに行ったが、とき遅く、持ち去られていて写せなかった。6月10日奥日光ハイキングの帰りに、阿部先生らと見に行ったときに写されたので、その写真を添えてもらうことができた。アジアから北アフリカ、ヨーロッパの広大な地域が原産地である。

※ よく似た、あかばな科のマツヨイグサ類(月見草の仲間)は、花びらが4枚なので区別できる。
(山口龍治)



(前略)…このたびは「鹿沼の自然・栃木の旅 月報第1～3号」をお送りいただきまことにありがたく厚く御礼申し上げます。

第1号では三木清の「人生論ノート」や山と溪谷171号など、なつかしい本が紹介されていて良司さんの個性が出ているなど感じました。5頁のコースを見ていて、中学生のときに自分たちだけ5、6人でこのコースに行った時のことを思い出しました。晩秋の頃、足尾行きのバスを細尾峠の上で降りて古峰ヶ原側に抜ける計画でした。落葉が50～60センチも積もっていてコースがよく見えなくて苦労しました。日も傾きかけた頃、地蔵岳まで到着したのは良かったのですが、山慣れない私たちには、そこから少し迂回して下に降りる道が何としても見つからず、往生したことを思い出します。

幸い、その当時は山で作業をされている方たちがいて、丁度帰宅するところだから、ついておいでと言われてホッとして後について無事古峰ヶ原まで降りて、バスで鹿沼に戻り、宇都宮に戻りました。もし、あそこで地元の人に会えなかったらちょっとした遭難さわぎになっていたところでした。今から54～5年も前の話ですが、そんなことを思い出させてくれました。(後略)(シモツケコウホネと里を守る会・森 道暁)

毎号たのしみに、読ませて頂いています。

活動に参加出来る皆さんは、いろいろな体験、学習が出来てすばらしいと思います。

都会にいる孫達に、鹿沼学舎の行事に誘っていますがなかなか実現しません。

1ヶ月ほど前に、珍しい地味な色のトンボを見かけました。アジサイの枝を這っているシャクトリムシかと思ったら細いトンボでした。イトンボって青い色だという先入観があったので、早速図鑑で調べたら「オツネトンボ」のようです。

成虫で年を越すトンボなんて、初めて見ました。私には大発見でした。

今年初めて、ヒヨドリの巣作りから、抱卵、孵化、巣立ち、その後まで楽しい観察ができました。

ヒヨドリって、羽色もよくないし、糞をビシャっとするし、好きではなかったのですが、会話ができるんです。親鳥は巣作りのとき、私の寝ている窓際に来て、目が合って何か語りかけているようだったのですが、そばのナツツバキに巣を作りました。側に行くと、ピーピー抗議をするし、雛は手の側まで降りて来てなにやら話しかけるのです。

平安時代には名前をつけたりして、貴族の愛玩物だったとか、なるほど合点です。

(桜井節子・7月9日)

{ 楽しいお便り(メール)をいただきましたので、「平安時代にヒヨドリについての記録?」と質問を兼ねてお返事を差し上げたところ、早速返信をいただきました。

お尋ねの文献ですが、“ウィキペディア”でヒヨドリを検索していたら、5、「人間との関係」の項目に、平安時代の貴族の愛玩物云々とあって「古今著聞集」に書かれているらしいです。私は原文を読んでいませんが…

私も知りたいところです。

(同上・7月13日)

{ 「古今著聞集」ね…(聞いたことはあるけれどどんなものだけ見たことない)調べてみようかと図書館に行ってみると、ちょうど貸出中。桜井さんだったのかも。後日改めて件の本を手にししました。鎌倉時代に成立した全30巻ほどの説話集の1巻が動物関係の話題でまとめられており、昔の人々の生き物とのかかわり方が興味深い資料です。でも、この1件にはまだ続きがありました。

(前略)…先頃のヒヨドリ的一件で、「具体的な文献名は」との問いに、私もその気になって「古今著聞集」の鶴合の段、井上靖の「後白河院」、中納言建春門院「たまきはる」と次々に図書館通いをして、思いもかけず古典に触れる機会を得られましたことをとてもうれしく、感謝いたしております。

今は、「トンボ」のいろいろを調べていますが、雄略天皇が詠んだ「秋津」を万葉集で見つけました。

次から次と新しい課題が出てきてけっこう楽しいです。(後略)(同上・8月7日付)

このお便りは、毛筆の封書でいただきました。(「両刀遣い」だ！)

人の数だけ「好奇心」がある。とすれば、その交流を通じて世界は果てしなく広がっていく…それは自分自身にも大きな愉悅ですが、人にもそんな場や機会を提供できれば、これに勝る喜びはありません。小誌の存在がそんなお役に立てばと思います。 皆様のおたよりをお待ちしています。 (編集部)



鹿沼の自然・栃木の旅 月報第4号

2012年8月1日発行

北光・自然観察クラブ

鹿沼市上田町1923

発行人 阿部 良司

年会費 1200円

携帯メール希望の方はこちらへ→shizenclub.2006@docomo.ne.jp